

登山月報

第21回国際部・海外遭難対策研究会及び委員総会報告	1
自然保護委員会委員総会報告	3
指導員の教育と研修及び主任検定員養成講習会開催要項	6
遺対レポート	7
スポーツクライミング全国研修会委員総会開催要項	8
第16回ジャパンカップ	8
宮城・仙台大会開催概要	8
第10回日本山岳耐久レース開催概要	9
図書紹介	9
寄贈図書	10

昭和四十五年十二月十二日 第三種郵便物認可(毎月一回十五日発行)

第21回国際部・海外遭難対策研究会及び委員総会報告

さる6月15・16日に岐阜県の国立乗鞍青年の家において第21回の海外遭難対策研究会と国際部の委員総会が開催された。

15日、東京方面からのバス到の遅れもあり、予定より少し遅れて午後3時過ぎ、日山協山本副会長の挨拶、主管の岐阜県山岳連盟伊藤会長の挨拶の後、海外遭難研究会が始まった。

今年のテーマは昨年に引き続き「ヒマラヤの雪崩遭難」。事故例報告として1991年1月、日本人11名、中国人6名が一行で行方不明となった中国の雲南省、梅里雪山(6740m)での雪崩遭難事故と、その後、次々と発見された犠牲者の遺体の収容作業について、京都大学学士会山岳会の睦好正治海外常任委員と小林尚礼講師から報告された。

委員総会報告

梅里雪山でのこの雪崩遭難事故は、日本隊の遭難事故としては最大規模のものにもかかわらず、事故直後に起こった湾岸戦争の報道にかき消され、国内ではあまり知られていない。報告書も出版されているが、一度報告を聞きたいとの要望でこの報告が実現した。

当時、対策本部にいた睦好常任委員からは、当時は登山隊全員が行方不明となつてしまつたために、事故原因など推測するしかなかつたが、その後発見された遺体が寝袋にはいて発見されるなどしたため、1月3日夜から4日未明にかけて就寝中に雪崩に襲われたことがほぼ間違いないことなど、映像を使って説明された。また、山の選定の経緯、登山時期の決定理由、タクティクスや合同隊の問題点

など、さまざまな角度から問題点が指摘され、それが、搜索活動、1996年の再トライでは夜間のルート確保のために標識ポールにLED点滅装置を装着するなどして生かされたと報告された。

当時大学3年生だった小林講師は、1998年以来、遺体の搜索、収容のために毎年現地に赴き、長期滞在をしている。現在は写真家として、現地の人々の生活を記録、そうした側面から住民の聖山を汚した登山という側面も紹介していた。地元住民の協力を得ながらの遺体の収容、身元の特定制という忍耐の要る作業が続いている仲間がいてくれたことが、京大の底力であり、亡くなった者達へのせめてもの救いであろうか。年間200メートルも

移動するという明永氷河。遺体の散乱域はこれから収容が可能なアイスフォール帯に入り、数年後には観光客が触れることができる氷河舌端まで到達するという。今後に大きな問題をはらんでいることがうかがえた。

中川裕常任委員からは、昨年に引き続き日本隊の雪崩遭難の実態が報告された。過去の雪崩遭難事故の豊富な映像があり、雪崩事故の実態にせまる迫力あるものとなつた。

睦好、中川両氏はコンピュータを使用してのプレゼンテーションとして、説得力のある内容であり、小林氏の質の高いスライドも臨場感があり見ごたえであつた。

研究会が終わり、夕食は、岐阜岳連にご用意いただいた特別食により、夜遅くまで賑やかに続いた。

16日、岐阜岳連からの要望により、昨年冬にロイツエ(8,516m)南壁に挑んだ日本山岳会東海支部



国際山岳年記念事業を成功させよう!

隊の報告が瀧根正幹副隊長より行われた。プレ登山として行われたチョー・オユ(8,201m)の報告も含めて、ヒマラヤのトップレベルの「課題」にいかにして取り組んだのか。南壁本番前に、凍傷や体調不良から隊員が減少し、戦力不足などから登頂はならなかったが。その敗因を分析し、この「課題」を解決するためには何が必要なのか、率直で貴重な報告を聞くことができた。尚、東海支部は再度の挑戦を計画しているという。

ネパール推薦状廃止

委員総会では、国際山岳連盟(U I A A)およびアジア山岳連盟(U A A A)理事会の報告にあわせて多くの皆様にご支援いただいたネパールの国際山岳博物館のソフト・オープンの様子がビデオを交えて紹介された。来年5月、エベレスト(8,848m)の登頂50周年にあわせて本格的オ

昭和四十五年十二月十二日 第三種郵便物認可(毎月一回十五日発行)

ープンが予定されている。重要な事項としては、ネパール登山規則が改正され、これまで海外登山委員会の職務であったネパールの推薦状制度がなくなったことが報告された。これまで登山者にとっては何のメリットもない、この推薦状制度の簡素化、廃止を要望してきた国際部としては喜ばしい限りだが、これにより日本人のヒマラヤ登山状況の把握が一層困難になることが予想され、まだまだ経験が少なく、情報が不足しがちなヒマラヤ諸国へのわが国からの登山への影響が心配される。また、これからの

国際部の活動も見直しをしなければならぬ時期に来たわけだが、時間の都合で十分な討議はできなかった。参加者36名、交通費補助の打ち切りの影響なのか、岳連の代表は16名と委員総会は名ばかりとなってしまう。地元からの参加者も少なく、地方開催の意義も問わなければならぬだろう。こうした全体的なこの会の低調傾向は今回だけのことではなく、補助金のカットや足の便の悪さだけが原因ではないことは確かである。

(常任委員 中川裕記)

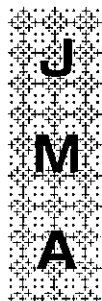
日本体育協会

スポーツ指導者の登録

更新について

平成13年9月から、更新登録方式が変更になりました。新方式は本人が直接日体協にカードを返送し、更新登録料も日体協へ直接振り込みます。岳連(協会)

や都道府県体育協会を経由しないため、指導・研修実績や更新有無の確認を日体協と日山協間で後から行うこととなります。並行して提出を義務付けしている日山協更新登録カードは今ままで同じです。該当者は流れを良く確認し期限までに所定の手続きが必要です。



平成14年6月常務理事会

日時 平成14年6月13日(休)
18時30分～19時50分
場所 岸記念体育会館
401号室
出席 田中会長、山本、高室、城各副会長、八木原専務理事、尾形、小村、北田、相良、仙石、西内、原、森川各常務理事(18名中12名出席)
委任 小野寺、佐久間、木口、小林、森下各常務理事

◎報告事項

- 1、専門委員会動静
5月常務理事会以降
(5月10日、6月13日)
(1)5月13日(月)
指導常任委員会
(出席者11名)
- (2)5月14日(日)
国際部常任委員会
(出席者11名)
- ①海外登山計画審議
- ②海外遭難対策研究会
・委員総会について
(3)5月16日(木)
国体常任委員会
(出席者14名)
- ①57回高知国体のクライミング競技について
- ②58回大会の審判員について
- ③63回大分国体正規視察について
- (4)5月23日(火)
自然保護常任委員会
(出席者8名)
- ①尾瀬について
- ②国際山岳年富士山フォーラムについて
- (5)5月27日(月)
遭難対策常任委員会
(出席者7名)
- ①14年度委員総会について
- ②全山遭について
- ③山岳レスキュー講習会について
- (6)6月3日(月)
指導常任委員会
(出席者9名)
- ①委員総会について
(7)6月5日(火)
クライミング常任委員会
(出席者6名)
- ①JOCジュニアオリンピック



国際山岳年記念事業を成功させよう!

昭和四十五年十二月十二日 第三種郵便物認可(毎月一回十五日発行)

自然保護委員会

奥鬼怒研修報告

場所 奥鬼怒沼と奥鬼怒ス

1パー林道の視察。

日時 平成14年6月7日

8日

参加者 埼玉岳連 2名

千葉岳連 4名

東京都岳連 3名

栃木岳連 7名

自然保護委員会 11名

合計27名

○6月7日(土)

前日、夜半からの豪雨でスケジュールの消化が心配されたが川俣ダムに着くころには天気も回復してきた。参加者27名女夫淵温泉ターミナルに集合する。

栃木岳連の方達の話によると長年の経験で尾瀬周辺は梅雨時でも割合天気は良いとのことである。

一般車の乗り入れは女夫淵温泉まででこれより先は進入禁止となっている。「八丁の湯」までの林道は砂利道だがよく整備されて

おり昔の面影はない。

奥鬼怒温泉峡に入る場合は川沿いの登山道を歩く、約1時間で「八丁の湯」につく。

奥鬼怒温泉峡の3軒の小屋も経営方針の違いから昔と様変わりしており、昔の「秘湯」の面影は今はない。本日の宿「八丁の湯」の広場で昼食、参加者の自己紹介があり、栃木岳連、梅山氏の2日間の研修内容の説明を受け、日本でも有数の高層湿原である鬼怒沼の視察に出発する。

鬼怒沼までの見どころは、何と言っても登山道ぞいのネズコやウラジロモミ、ヒノキアスナロ等の巨木群である。10数年前の台風で倒れた巨木の後には、次世代の若木が無数に芽を出しており、世帯交代の学習にはとても良い場所でもある。この辺までくると標高が高

いためブナは少なくなるが中には、時々、巨木も見受けられる。ネズコ、ヒノキアスナロの樹皮の色、葉のつき方等について栃木岳連の小島副会長より講義を受ける。

早朝の登山ではないので小鳥のさえずりには、向かなかつたが、それでもオオルリやミソサザイ、ウグイス等のさえずりを聞くことができた。

鬼怒沼を見学、チングルマ、タテヤマリンドウ、ヒメシヤクナゲ、ナカバノモウセンゴケ等、湿原で見られる高山植物がいっぱい咲いていた。このところ登山者が多くなったせいか、踏みつけによる裸地化、温暖化の影響により池塘の水位が浅くなったこと、また、湿原の乾燥化が進んでいることなど栃木岳連の方たちの地道な観察の説明を受けた。

日光沢温泉小屋に川霧がかかるころ1日の研修も終わり、宿の「八丁の湯」に

ック大会について

②アジアチャンピオンシップについて
2、その他の主な事項
(5月10日～6月13日)

(1)5月10日(金)

①岡山国体障害者スポーツ大会事務局・佐藤総務企画課長、同・塩見企画調整主幹、小橋総務企画主任 挨拶に来局
(2)5月11日(土)～12日(日)
①「高知国体リハーサル大会」田中会長、城副会長出席

(3)5月14日(水)

①「監査」岸記念体育会館
《出席》福田、岡本各監事、田中会長、八木原専務理事代行、北田事務局長、木口各常務理事、共済代理店・瀬田順一氏
(4)5月21日(月)

①「国際山岳年・富士山エコ・フォーラム」打合せ
《出席》八木原専務理事代行、神崎HATJ事務局長、江川芳山理事、静岡県関係者
(5)5月22日(火)
①「監査」《出席》福田監事、北田事務局長

(6)5月26日(木)

①「平成14年度総会」東京代々木体育館競技場
(7)5月27日(金)～6月1日

(1)5月27日(金)

①「アジア山岳連盟総会」《出席》田中会長、八木原専務理事、関係者
②「国際山岳博物館ソフトオープン」
《出席》田中会長、八木原専務理事、関係者
(8)5月28日(火)

(9)5月29日(水)

①「英国チャリティー団体富士山登山支援」打合せ
《出席》北田事務局長、貫田国際交流常任委員、平岡竜石ガイド、英国大使館広報担当官・永谷裕氏
(9)5月29日(水)
①「ジャパン・アルパインガイド組合」設立のお知らせが届く。

(10)5月30日(木)

①「財ススポーツ安全協会第81回評議員会」岸記念体育会館
《出席》北田常務理事
(11)6月4日(火)～5日(水)
①「英国チャリティー団体富士山登山支援」



国際山岳年記念事業を成功させよう!

着く。

夜は、すばらしい露天風呂と名酒を酌み交わしての研修、近年の自然保護問題、特に尾瀬長蔵小屋の不法投棄問題は激論になり、自然保護委員会としてならかの行動を起こすべきだとの意見が多く委員から出た。また、昨年に引き続き、芭蕉研修家でもある栃木岳連の蓮見氏の「奥の細道」の話、インドに2年間、技術指導にいらっていた小島氏の「インドの絹織物について」の話、阪口前日山協会長の高嶺山(タカナギヤマ)2180m山麓の、昔、栄えた西沢金山の話、日光の西湖周辺の巨木は、日光をこよなく愛した、昭和天皇のお言葉で残されたことなど大変勉強になりました。

○6月8日(日)晴

奥鬼怒スーパール林道視察のため車で出発、ゲートの監視員に車で林道に入るための許可証の提示(私たちは、事前に県より調査のための許可証を受けていた)

高層湿原「奥鬼沼」視察



〔参加者〕貫田国際交流

任委員、平岡竜石ガイド、静岡岳連・前川朝夫氏、英国隊28名

(12)6月5日(水)

①「富士山エコ・フォーラム」記者会見

環境省記者クラブ

〔出席〕田中会長、関係者

(13)6月7日(金)

①「日体協公認指導者制度ヒアリング」

岸記念体育会館

〔出席〕日体協企画調整課長、育成課・小林課長、小野寺、北田各常務理事

(14)6月10日(月)

①「アジアチャンピオンシップ大会実行委員会」

富山県城端町

〔出席〕田中会長、森下常務理事、北山常任委員、富山岳連関係者、城端町関係者

(15)6月12日(水)

①J.R.東日本(株)より賛助会員退会の連絡

(16)6月13日(木)

①青森県山岳連盟前会長・松島静吾氏(参与)逝去

弔電、生花をおくる

◎議 事

(1)議事録の承認について

(2)5月常務理事会議事録(別紙)

(3)平成14年度総会議事録(別紙)

(4)平成14年度第1回理事会議事録(別紙)

○小材総務担当から提案される

★②について氏名の修正を行い、①及び③については提案どおり承認される

(2)平成14年度専門委員会委員長の指名について

○田中会長から別紙により提案される

★提案どおり承認される

(3)叙勲・褒章候補者の推薦について

○北田事務局長から提案される

★これまでの経過もあるもので、田中会長に一任すること承認される

(4)平成14年度専門委員会の構成について

○北田事務局長から別紙により提案される

★提案どおり承認される

※報告

昭和四十五年十二月十二日 第三種郵便物認可(毎月一回十五日発行)

昭和四十五年十二月十二日 第三種郵便物認可(毎月一回十五日発行)

と車ナンバー、氏名の記入をして林道に入らせていた

昭和46年、このスーパール林道の計画が持ち上がった時点で大きな反対運動が起こった。日本自然保護協会、日光の自然を守る会、尾瀬の自然を守る会、奥鬼怒を守る会等と行動をとりにした椎名委員などは、20数年前、渋谷へ新宿間をプラカードを持ち、緑の旗を立ててデモ行進をした思い出、当時の鯨岡環境庁長官に陳情書を出して今日があることなど、感無量と参加者に話をしていた。

この林道は、昭和57年に条件付きで建設が始まり、平成3年7月に林道の整備は終わった。平成12年10月に奥鬼怒トンネル(延長1309m 幅3.5m 高さ4.5m)の完成を見て現在では、奥鬼怒から大清水まで全線開通して車でなら1時間弱で大清水に抜ける。

総工費は、約105億円

と言われている。現在、通行が認められているのは、地元の人達の生活道路としての目的のみと聞いている。

この道路を視察して感じたことは、奥鬼怒側は谷が深く、また、トンネルを越えた群馬側の袴腰山や物見山の斜面には、みごとにブナの原生林が残っており、早春の新緑の頃や秋の紅葉の時期はすばらしいと思われ、将来は自然歩道として活用するのがよいと思われる。当然ではあるが、車の乗り入れは禁止がのぞましい。

急ぎよ、大清水で長蔵小屋の不法投棄問題の実情を把握するための仲間7人と別れ、来た道を引き返し、夫婦湯温泉ターミナル前で研修を終わりに解散した。まだ時間も早かったので一部の参加者で川俣温泉から光徳牧場までの林道の視察と木々の観察をしながら男体山の志津側のなごの工事現場、羽黒山信仰のおんば様等を見学して2日間の

研修を終わった。

2日間、研修でお世話になった栃木岳連のみなさんありがとうございました。今後とも研修を積み、自然保護指導員として活動してまいりたいと思います。(常任委員 小高令子記)

お知らせ

国際山岳年記念

第13回「山田昇記念杯」

登山競争大会

主催

群馬県山岳連盟

期日

平成14年10月6日(日)

小雨決行

締切

平成14年9月20日(金)

※詳細は次号に掲載します。

(1)平成13年度スポーツ振興基金助成金実態調査の結果について

改善計画書の作成については、事務局長に一任すること承認される

(2)自然保護指導員の承認について

山形1名、愛知3名、兵庫23名

(3)指導者資格の認定について

「準指導員」岩手20名、山形3名、神奈川7名、石川11名、静岡3名、愛知1名、大阪8名、愛媛1名

「アシスタントコーチ」神奈川3名

報告どおり承認される

(4)後援名義の使用について

「全国雪崩教育交流会」7月13日(土)~14日(日)

名古屋市(予定)

主催 日本勤労者山岳連盟

報告どおり承認される

(5)役員派遣について

①「日体協平成15年度叙勲褒章候補者の推薦に関する説明会」6月20日(木)

《出席》北田常務理事

報告どおり承認される

②「JOCコーチ会議」6月21日(金)~22日(土)

国立スポーツ科学センター《参加者》森下常務理事、浅野医科学副委員長

報告どおり承認される

③「東京アウトドアズ フェスティバル」6月21日(金)~23日(日)

東京池袋サンシャイン《参加者》北田常務理事

報告どおり承認される

4「平成14年度 遭難対策委員総会」6月22日(土)~23日(日)

《出席》城副会長、内藤前常務理事、西内常務理事

報告どおり承認される

⑤「日体協第1回評議員会」6月25日(火)

品川プリンスホテル《出席》田中会長

報告どおり承認される

⑥「平成14年度指導員総会」6月29日(土)~30日(日)

《出席》田中会長、小野寺常務理事

報告どおり承認される

⑦「全国山岳遭難対策協議会」7月4日(木)~5日(金)

国際山岳年記念事業を成功させよう!



平成14年度

登攀技術に関する指導員の教育と研修 及び主任検定員養成講習会 開催要項

主催 日本山岳協会
主管 岩手県山岳協会

共通項目

期日 平成14年9月28日(土)
29日(日)

集合 研修及び講習場所

○集合場所及び机上

北上市立花下野公民館

北上市立花一五地割

八六一二

☎0197-65-4058

○実技

北上市展勝地珊瑚岳

岩場付近

○宿泊 上記下野公民館、

但し、前泊は各自で手配。

○日程

【9月28日】

9時30分受付、開会、研

修・講習開始、入浴・夕

食後 情報交換

【9月29日】

8時00分朝食後、研修・

講習、昼食後反省会、解散

具体的なスケジュール

につきましては当日配布

いたします。尚、研修会

と主任検定員講習とは基

本的に別になります。

○携行品 登攀具一式、検

定基準、筆記具、洗面用

具、寝袋、マット

○費用(宿泊・食事、参加

費は後述) 28日昼・夕食、

29日朝・昼食及び懇親会

費 6,000円

○現地連絡先 岩手県山岳

協会理事 藤原利雄

☎029-55505

和賀郡湯田町湯本

☎0197-84-2029

FAX 0197-84-2032

E-mail

tosho.1@town.yudai.wac.jp

○参加人員 研修40名、主

任講習40名

○申込み 規定用紙に必要

事項を記入。

○締め切り9月17日(月)

日山協事務局宛て必着。

☎03-3481-2396

FAX 03-3481-2395

研修会

○参加資格 原則として公

認指導員(スポーツ指導

員、コーチ)の資格を有

し、岳連(協会)会長よ

り推薦された者。

○研修内容 登攀の実践を

通じて、確保技術等の問

題点を検討する。

○参加費 2,000円

主任検定員養成講習会

○参加資格 B級スポーツ

指導員以上で検定の経験

のある者。岳連(協会)

会長より推薦された者。

○講習内容 個々の技術講

習ではなく、あくまで検

定経験者が、今後さらに

検定する為の方法の確認

です。

レポート「自分の経験に

基づいて検定評価について

述べよ(約1,000字)

及び過去に自分が行った

「検定実績一覧」(様式自

宇都宮市

①「出席」田中会長、

西内常務理事、

小林常務理事(助言者)、

惠常任委員(講師)

報告とおり承認される

⑧「山岳4団体懇談会」

7月12日(金)午後7時

新宿中村屋 役員・監事

報告とおり承認される

⑨「第44回自然公園大会」

7月24日(水)~25日(木)

青森県十和田

⑩「参加者」佐久間常務理事

「平成14年度全国高等学

校総合体育大会」

8月2日(金)~6日(火)

茨城・男体山

⑪「出席」田中会長、小林

常務理事、西内常務理事

報告とおり承認される

⑫「JOCジュニア

オリンピックカップ」

8月10日(土)~11日(日)

富山県城端町

⑬「出席」田中会長、城副

会長

⑭「出席」原、仙石、小林

各常務理事

⑮及び⑯の田中会長及び

城副会長の日程について

は、両者協議して決定す

ることで承認される

⑯平成13年度会議費支出

一覧表について

⑰平成13年度山岳共済保

険手数料計算書について

⑱報告とおり承認される

⑲沖縄県の問題について

⑳これまでの経過と今後の

対応について協議される

㉑その他

㉒「常務理事会新旧懇親会」

6月13日(木)午後7時30分

⑳「北田常務理事の休暇につ

いて

㉓7月22日(月)~8月14日(水)

海外登山(ポリビア)

⑳(総務担当 小村守志記)

㉔参加費 5,000円

(含資料実費代)

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸



国際山岳年記念事業を成功させよう!

昭和四十五年十二月十二日 第三種郵便物認可(毎月一回十五日発行)

遭対レポート (第二回)

GPSを用いた登山者へ「厳重注意」のお知らせ

1. 経度・緯度の基準が変わった

GPS(Global Positioning System)は、米国防総省で開発され、非常に手軽に現在位置が高精度で得られること、また、カーナビに採用されたことなどにより、様々な領域で急速に利用されるようになってきました。登山においても、かつては、一部の専門家の間でのみ利用されてきたが、販売価格が1万円台となり、急速に一般ハイカーに利用されるようになってきています。ところが、国土地理院において、測量法が改正され、経緯度の基準は今まで使用してきた「日本測地系」より世界標準「世界測地系」に変わりました。この影響

は大きく、GPSか地形図の使用法を誤ると、道迷い事故の原因となる危険性が出てきています。そのズレの程度は、日本測地系で表してきた地点を世界測地系で表すと、東京付近の緯度で約プラス12秒、経度で約マイナス12秒となっています。これを距離に換算すると450mにも達し、その上、このズレ量は、全国一律ではなく、場所により異なっています。

2. どの様な場合にズレるのか

登山者にとって、このズレは、GPSと使用する地形図との新・旧測地系の組み合わせによって、違いが発生します。そのズレ量は約400m、約450m程度と理解してください。

3. GPSでの測地系設定について

GPSでは、測地系を初期設定する箇所、世界測地系と日本測地系を選んで下さい。ただし、「世界測地系と日本測地系」の表示をとらずに、世界測地系は「WGS-84」と表示され、日本測地系は「トウキョウ」と表示されている場合があります。

4. 地図に用いられている測地系について

国土地理院発行の地形図には、平成12年度版より右下隅の縮尺・スケール表示の上に「茶色の経緯度数値は世界測地系による」と書かれて、地図枠には世界測地系と日本測地系との2形式併記型で表示がなされています。したがって、GPSを利用するために、1分おきに緯度経度線を描く場合、かなり注意しないと測地系を見誤る可能性があります。また、大きな書店での地形図売り場には、同一地点で

も異なる表示法の地形図を混在させて販売しているため、気をつけて下さい。

一方、地図会社発行の登山地図でも、世界測地系に変更しているものと、日本測地系のまま表示されているものがあります。世界測地系を使用している場合は、その旨断り書きがあるので必ず確かめて下さい。地形図において、測地系の表示が完全に世界測地系だけになるのが、3年後と言われているのが、地形図とGPSの新旧測地系の組み合わせによる混乱は数年続いているものと予想されます。当面の間、利用する地図に応じてGPSの測地系を変更する習慣をつけてください。

5. 発生が予想される事故

一般に、登山者が、山行中GPSを使用するのは分かれ道などにさしかかった時だけの限定使用の場合が多く、大幅なズレが発生していることに気づかないケースが多いと考えられます。

6. さらに詳しい情報を

知りたい場合 国土地理院の地形図における新旧測地系の違いをインターネットで調べる場合は左記のアドレスをご覧ください。
http://www.gsi.go.jp/ MAP/NEW/OLDBL/ New_OldBLindex.html
(遭難対策委員会)



遭対レポート (第二回)

GPSを用いた登山者へ「厳重注意」のお知らせ

1. 経度・緯度の基準が変わった

GPS(Global Positioning System)は、米国防総省で開発され、非常に手軽に現在位置が高精度で得られること、また、カーナビに採用されたことなどにより、様々な領域で急速に利用されるようになってきました。登山においても、かつては、一部の専門家の間でのみ利用されてきたが、販売価格が1万円台となり、急速に一般ハイカーに利用されるようになってきています。ところが、国土地理院において、測量法が改正され、経緯度の基準は今まで使用してきた「日本測地系」より世界標準「世界測地系」に変わりました。この影響

は大きく、GPSか地形図の使用法を誤ると、道迷い事故の原因となる危険性が出てきています。そのズレの程度は、日本測地系で表してきた地点を世界測地系で表すと、東京付近の緯度で約プラス12秒、経度で約マイナス12秒となっています。これを距離に換算すると450mにも達し、その上、このズレ量は、全国一律ではなく、場所により異なっています。

2. どの様な場合にズレるのか

登山者にとって、このズレは、GPSと使用する地形図との新・旧測地系の組み合わせによって、違いが発生します。そのズレ量は約400m、約450m程度と理解してください。

3. GPSでの測地系設定について

GPSでは、測地系を初期設定する箇所、世界測地系と日本測地系を選んで下さい。ただし、「世界測地系と日本測地系」の表示をとらずに、世界測地系は「WGS-84」と表示され、日本測地系は「トウキョウ」と表示されている場合があります。

4. 地図に用いられている測地系について

国土地理院発行の地形図には、平成12年度版より右下隅の縮尺・スケール表示の上に「茶色の経緯度数値は世界測地系による」と書かれて、地図枠には世界測地系と日本測地系との2形式併記型で表示がなされています。したがって、GPSを利用するために、1分おきに緯度経度線を描く場合、かなり注意しないと測地系を見誤る可能性があります。また、大きな書店での地形図売り場には、同一地点で

も異なる表示法の地形図を混在させて販売しているため、気をつけて下さい。

一方、地図会社発行の登山地図でも、世界測地系に変更しているものと、日本測地系のまま表示されているものがあります。世界測地系を使用している場合は、その旨断り書きがあるので必ず確かめて下さい。地形図において、測地系の表示が完全に世界測地系だけになるのが、3年後と言われているのが、地形図とGPSの新旧測地系の組み合わせによる混乱は数年続いているものと予想されます。当面の間、利用する地図に応じてGPSの測地系を変更する習慣をつけてください。

5. 発生が予想される事故

一般に、登山者が、山行中GPSを使用するのは分かれ道などにさしかかった時だけの限定使用の場合が多く、大幅なズレが発生していることに気づかないケースが多いと考えられます。

6. さらに詳しい情報を

知りたい場合は、国土地理院の地形図における新旧測地系の違いをインターネットで調べる場合は左記のアドレスをご覧ください。
http://www.gsi.go.jp/ MAP/NEWOLDBL/ New_OldBLindex.html
(遭難対策委員会)



スポーツクライミング

全国研修会兼委員総会開催要項

スポーツクライミング競技会の運営、審判に主眼を置いたものと、ルート・セッターの研修会を同時進行で行います。又クライミング委員総会も開催します。

I 審判・競技運営研修会

期日 平成14年9月12日(木)

13日(金)

会場 宮城県スポーツ振興財団

☎982-0844

宮城県第二総合運動場

仙台市太白区根岸15-1

☎022-249-1216

(指導課)

集合 9月12日(木)13時00分

上記内トレーニングセンター内

参加費 15,000円

当日受付時徴収

II ルート・セッター研修会

日時 平成14年9月11日(木)

参加費 15,000円

当日受付時徴収

13日(金)

会場 上記と同じ

参加資格 以下の条件の内、一つ以上を満たすもの

- (1) 5・11a以上をオンサイトできる。
- (2) 5・12a以上を1日でレッドポイントできる。
- (3) 大小を問わず競技会のルート・セットをおこなった経験がある。
- (4) フリー・クライミング競技会(JFAジャバントア1、アジア・チャンピオンシップ、ワールドカップなど)の参加経験がある。
- (5) 自然の岩場でフリー・クライミング・ルートの開拓を10本以上行っている。

期日 平成14年9月15日(日)

16日(月)

会場 宮城県スポーツ振興財団

☎982-0844

宮城県第二総合運動場

仙台市太白区根岸15-1

☎022-249-1216

(指導課)

主催 日本山岳協会

主管 日本山岳協会・クラ

イミング委員会

宮城県山岳連盟

協力 日本フリークライミング協会

競技方法 オンサイト・リード方式によるディフィ

カルト競技

競技規則 UIAAに準拠

保険料 実費徴収

※両研修会とも、宿泊、持参する物等の詳細については、後日参加者には別途連絡。

補助 交通費、宿泊費は規定により補助(要印鑑持参)

期日 平成14年9月15日(日)

16日(月)

会場 宮城県スポーツ振興財団

☎982-0844

宮城県第二総合運動場

仙台市太白区根岸15-1

☎022-249-1216

(指導課)

主催 日本山岳協会

主管 日本山岳協会・クラ

イミング委員会

宮城県山岳連盟

協力 日本フリークライミング協会

競技方法 オンサイト・リード方式によるディフィ

カルト競技

競技規則 UIAAに準拠

申込方法・その他

規定の申込書に必要事項記入のうえ、郵送またはFAXにて送付する。

問い合わせ及び申し込み先

☎214-0006

川崎市多摩区菅仙谷

2-17-1-106

申込方法・その他

規定の申込書に必要事項記入のうえ、郵送またはFAXにて送付する。

問い合わせ及び申し込み先

☎214-0006

川崎市多摩区菅仙谷

2-17-1-106

山本和幸

☎044-945-2456
FAX 044-945-2476
Eメール
E_mail 7@yahoo.co.jp

○締め切り
平成14年8月28日必着

第16回ジャパノカップ宮城・仙台大会開催概要

期日 平成14年9月15日(日)

16日(月)

会場 宮城県スポーツ振興財団

☎982-0844

宮城県第二総合運動場

仙台市太白区根岸15-1

☎022-249-1216

(指導課)

主催 日本山岳協会

主管 日本山岳協会・クラ

イミング委員会

宮城県山岳連盟

協力 日本フリークライミング協会

競技方法 オンサイト・リード方式によるディフィ

カルト競技

競技規則 UIAAに準拠

参加資格 5・10以上のリード・クライミング経験者

参加選手 都道府県山岳連盟(協会)推薦選手、一般参加者

競技日程(予定)

15日 選手受付、男子予選、女子準決勝

16日 男子準決勝、男子決勝、女子決勝、表彰式

参加費 5,000円

当日納入

申込方法

規定の用紙に必要事項を記入の上、下記まで郵送又はFAXにて送付。

☎190-0032

東京都立川市上砂町

5-32-3-409 井上大助
FAX 042-535-4404
締め切り 平成14年8月28日必着
問合せ先
〒214-0006
川崎市多摩区菅仙谷

2-17-1-106
山本和幸
☎044-945-2456
FAX 044-945-2476
Eメール
E_mail 7@yahoo.co.jp

(備考)

本大会はJFAのジャパノ・ツアー第4戦としても扱われます。

昭和四十五年十二月十二日 第三種郵便物認可(毎月一回十五日発行)



国際山岳年記念事業を成功させよう!

昭和四十五年十二月十二日 第三種郵便物認可(毎月一回十五日発行)

国際山岳年記念

第10回日本山岳耐久レース

サイバルレース(24h)

期日 2002年10月13日(日)

14日(祝)

雨天決行(暴風雨以外)

会場

あきる野市五日市会館

受付:五日市会館

スタート・ゴール:五日市会館前

コース

東京都奥多摩山域

(71・5km)

スタート↓今熊神社

↓醍醐丸

↓生藤山(990m)

↓土俵岳(1005m)

↓笹尾根

↓三頭山(1527m)

↓大岳山(1266m)

↓御岳神社(929m)

↓金比羅尾根↓ゴール

日程

【10月13日】

受付 10時00分

開会式 12時10分

スタート 13時00分

【10月14日】

ゴール制限24時間締切

(完走) 13時00分

閉会式

参加資格

①大会当日において16歳以上の人(18歳以下は保護者の承諾必要)

②レースの全コースを迷うことなく、制限時間内に完走の自信がある人

申し込み方法、競技方法、諸注意その他

主催者発行の大会実施要項による。

主催 東京都山岳連盟

申込締切日

8月30日(金)消印有効

(先着1000名になり次第締切)

(C)ランテス締切:8月

29日(休)必着

大会に関する問合せ

東京都山岳連盟日本山岳耐久レース大会事務局

☎03-3535-2780

☎104-0031

東京都中央区京橋

1-9-9

湘南産業八重洲ビル401号

東京都山岳連盟

ホームページ

http://www.togakuren.com



ヤマケイアルペンガイド⑩

乗鞍・御嶽

霧ガ峰

垣外富士男

島田 靖

本書は、

(1)美ガ原

(2)鉢伏山と高ボッチ山

(3)霧ガ峰

(4)蓼科山と八子ガ峰

(5)鉢盛山とハト峰

(6)乗鞍岳

(7)御嶽山

(8)飛驒の山々

とわけて、コースをガイドしている。

まず、乗鞍・御嶽・霧ガ峰の総図があり、各ブロックごとにも総図を載せている。次は、ブロック図でコースを示し、中心部をさらに拡大したブロック図もある。

各山のコースは、ほとんどすべてがガイドしてあり、体力、技術、危険の三点について、一ツ星から四ツ星で難易度を表記している。歩行時間、標高差、累積標高差、コースタイムがあり、交通アクセス、宿泊、キャンプ地、コースメモもあつて、コースガイドばかりでなく、親切にコース全般をガイドしている。

山中のカラー写真もあつて、山容がよくわかる。交通アクセスの一例をあげると、乗鞍岳の場合、岐阜県の乗鞍スカイラインの開通基間は5月中旬から10月下旬まで。開通時間は、5月と10月が7時から17時30分、6月から9月は午前3時30分から19時30分まで、ご来光に配慮した時間帯になっている。この道路は四季を通じて濃霧の発生が多く、山岳特有の気象条件下にあり、降雪や凍結、豪雨などではしばしば通行止めとなるので注意が必要。

と、解説してあり、巻末に各種の情報もある。良いガイドブックである。(石田稔郎)

B6判 295ページ

定価 1700円

発行 2002年4月初版

発行所 山と溪谷社



国際山岳年記念事業を成功させよう!

山の軍曹 カールを駆ける

木下寿男著

著者は駒ヶ根市生まれで、中央アルプスの千畳敷山荘や天狗荘の管理人を経て、67年にホテル千畳敷の支配人となり、中アの遭難救助活動や自然保護活動に尽力してきた人である。

- 本書は、
- Iカールの登山者もよう
- II静寂のなかの千畳敷
- III心に残る救助活動
- IV雪崩の恐怖
- Vレスキュー

サイドストーリーの5章に分けて記載されているが、標高2600mの観光地である千畳敷なので、観光気分登山者が、山の知識も装備も持たずに押し寄せてくるようになって、補導所の補導員が驚いたり、呆れたりする人が絶えないという。

のなら、ここぞとばかりに嘔みついてきて、アドバイスを拒絶したり、登山届の用紙を丸めて放り投げて、補導員を殴って立ち去っていったという人もいたそうである。

本書の全編は、忠告を無視して行方不明になったりした登山者の捜索、遭難救助、遭難者の収容の話である。95年の1月には、ホテルまで50、60mの所での雪崩で6人が遭難している。

雪崩の発生は午前11時過ぎで、宝剣山荘を早朝に出発して下山した登山者は無事だった。

今日は雪崩が発生する可能性が高いので、行動しないで下さいと注意しているのに、登山に行く人が後を絶たず、遭難している。

本書を読むと遭難者の実態がよくわかり、こんな困った登山者がかなりいることは問題である。

著者は地元の駒峰山岳会員としても積極的に活動。中アや南アに初登攀の記録



- （会報・雑誌）
- 兵庫県山岳連盟
- 愛知県山岳連盟
- 東京都山岳連盟
- 神奈川県山岳連盟
- 長野県山岳協会
- 日本勤労者山岳連盟
- 日本山岳会
- 大韓山岳連盟
- 日本ヒマラヤ協会
- 日本ネパール協会
- 日本山岳写真協会
- 国立公園協会
- 地図協会
- 国立代々木競技場
- 大阪府立体育館
- 長野県山岳総合センター
- 大阪府スポーツ振興協会
- 日本テントシート工業組合
- 連合会
- 製品安全協会

- 植村記念財団・植村冒険館
- 山と溪谷社
- 東京新聞出版局（岳人）
- 京都下京山岳会
- 近畿山行会
- 日本万歩クラブ
- 福岡山の会
- 東京野歩路会
- HCかざぐるま
- やまびこ山想会
- こぶし会
- 横浜山岳会
- 近畿山岳愛好会
- とよた時
- 松下電器山岳会
- 明治大学山岳部炉辺会
- （書籍）
- ◎山と溪谷社出版部
- 「山がくれた
- ガンに負けない勇氣」
- 著者・小嶋修一
- ◎情報センター出版局
- 旅の指差さし会話帳
- ◎中山山岳会
- 會報（104号）
- ◎東海大学ヒマラヤ
- 遠征委員会
- 東海大学・チベット大学
- クーラカンリ友好

編集後記

梅雨明けがすぐ目の前の今日この頃、各位におかれましては諸々夏山計画の立案中と推察申し上げます。

過日、本誌記事でお知らせしました400号を国際山岳年特集にするには編集が纏まらず例月通りのかたちになりました。お詫びを申し上げます。

（広報 相良忠磨記）

学術登山隊2001
遥かなるチベット
クーラカンリ

登山月報 第四〇〇号
定価 一〇〇円（送料別）
予約年間一〇〇円送料共
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
（毎月一回十五日発行）

発行日 平成14年7月15日
発行者 東京都渋谷区神南
一のの一
岸記念体育会館内
社団法人日本山岳協会
電話 〇三三三四八一
一三三九六
FAX 〇三三三四八一
一三三九五

昭和四十五年十二月十二日 第三種郵便物認可（毎月一回十五日発行）



国際山岳年記念事業を成功させよう！